

モラロジー 道徳教育

～知徳一体の教育をめざして～

- ◎中学校の道徳教科化に向けて 鈴木明雄
- ◎問題解決的な思考を助ける授業づくり 広中忠昭
- ◎研究実践 黒田愛子
「心みつけを通して豊かな心を創造し、よりよく生きる力を育む児童の育成」
- ◎脳科学から見た道徳教育(1) 高橋史朗
「本連載を始めるにあたって」
- ◎本音・実感の道徳授業(2) 野口芳宏
「いただきます」と「ごちそうさま」
- ◎実践報告 福田千恵

編集・発行 公益財団法人モラロジー研究所
生涯学習本部 道徳教育推進部

〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘2丁目1番1号
電話 04-7173-3219 ファックス 04-7176-1177



自分らしくよりよく生きようとする子供たちを育てる
—限りなき愛情を注ぐことが道徳教育の原点—

武庫川女子大学教授 押谷 由夫

●対応能力を超えるストレスにどう対応するか
人間には対応能力が備わっている。けがをしても知らず知らずに治ったり、精神的にストレスがあっても時間とともに解消したりするといった自然治癒力や、環境の変化に対しても自然と適応していく環境適応力などである。それが限界値を超えると異常をきたす。

心を温めることである。心を温めるとは、愛情をいっぱい注いであげることである。そのことによって、心の中にたまっているヘドロを溶かしていくのである。

今日の社会の変化や生活環境の変化は、このような対応能力の限界をはるかに超えるストレス要因を、子供たちに浴びせかける。

●しっかりとした道徳的価値意識をもって愛情いっぱいに接しよう
愛情をいっぱい注ぐとは、子供たちのよりよく生きようとする心を信じて、自らの中にしっかりとした道徳的価値意識をもって、子供たちに寄り添い、穏やかな表情で（笑顔）で接することである。子供たちは自分を認めてくれているという意識をもてば、その人のいうことを聞こうとするし、行動もまねようとする。大人自身がしっかりとした価値意識をもって、愛情いっぱいに接していくことで、

●心のヘドロをとろかせるのは大人の愛情
このような状況にいる子供たちに、一方的によりよく生きるようにと道徳教育に取り組んでも心には響かない。では、何が必要か。

自然と道徳性を身につけることができる。そのことをベースとすれば、様々な状況に対して共感的意識をもちながら、多様に考え、判断し、行動へとつなげていく道徳教育が機能すると言えよう。